

社会教育委員会第7回定例会議（9月8日）での検討内容

1. 第7回の検討テーマ

足立区の社会教育の方向性について意見交換

2. 検討に当たっての前提

(1) これまでの足立区の社会教育、生涯学習の取り組みの成果

① 生涯学習計画の策定による総合的推進

・基本構想、推進計画により生涯学習を全区的に推進

② 施設整備の推進

・区内を13ブロックに分けた区の施設整備計画に沿って、各ブロックに社会教育館、図書館、体育館の複合施設を整備

・全区施設として、生涯学習センター、中央図書館、総合スポーツセンター、女性センター、こども科学館（現こども未来創造館）、西新井文化ホール、等を整備

③ 学校利用環境の整備

・学校開放による施設利用環境を小中学校全校で実施（校庭、体育館、教室）

・放課後こども教室の全小学校での実施

④ 区民施設での生涯学習事業の展開

・住区センター（児童館、老人館、集会施設の複合施設で、区で設置して地域で運営）における生涯学習事業の実施

⑤ 区民による社会教育、生涯学習活動の活性化

・社会教育館、体育館での教室事業から多数の自主グループが誕生し、継続的活動

・区民大学講座から誕生した自主学习グループの活動とNPO化

⑥ 地域課題の学習の重視

・学習による地域課題の解決、新たな地域社会の創造を支援する学習への転換を提起

・そのため、社会教育館を地域学習センターに改称

⑦ 大学誘致による大学連携による学習機会の提供

・5つの大学の誘致と連携した学習機会の実現

(2) 足立区の社会教育、生涯学習の課題

① 計画の不在

・第2次生涯学習推進計画が終了した後、新たな社会教育、生涯学習に関する計画がない

② 家庭教育支援の弱体化

・家庭教育支援事業の縮小

③ 学校教育との連携が希薄

・社会教育を地域の力推進部が担うことで、地域の力の醸成を図るが学校との連携は希薄に

④ 地域学習の展開が進んでいない

・地域学習センターに名称を変えたが、学習のあり方の転換まではできていない

⑤ 学習を指導できる人材の体系化と活動できる仕組みの不在

・人材名簿、人材バンクに取り組んできたが、機能するには至らなかった

⑥ 学習成果を評価する仕組みができていない

・制度の検討も進んでいない

3. 検討に当たって参考としてお話しいただきたい内容

「第6期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」平成25年01月25日

＊明石先生が委員

「社会教育推進体制の在り方に関するワーキンググループにおける審議の整理」平成25年09月17日

＊松田先生が委員

○ 第6期中央教育審議会生涯学習分科会は、「生涯学習社会の構築」の中心的な役割を担う社会教育行政の今後の推進の在り方について審議を行い、平成25年1月、審議内容を「第6期中央教育審議会生涯学習分科会における議論の整理」（以下「議論の整理」という。）としてとりまとめた。

「議論の整理」では、社会教育行政の今後の方向性をネットワーク型行政の推進を通じた「社会教育行政の再構築」としてとりまとめたが、その再構築の具体的な方策や社会教育主事等の専門的職員や地域人材の在り方については、第7期中央教育審議会生涯学習分科会等において更に検討を行うこととされた。

○ これを受け、平成25年3月に発足した第7期中央教育審議会生涯学習分科会は、「社会教育推進体制の在り方に関するワーキンググループ」（以下「WG」という。）を設置し、本WGにおいて、今後の社会教育行政や社会教育主事の在り方に関する具体的方策について審議を進めてきた。

＊「中央教育審議会生涯学習分科会 社会教育推進体制の在り方に関するワーキンググループにおける審議の整理」はじめに より

＊社会教育主事に関して、設置率、人数が減少している状況に対し、社会教育主事が関係施策におけるコーディネーター等の役割を果たすことが重要との意見がまとめられているが、足立区においても、退職不補充によって人数が減っており、定数を満たしていない状況が続いている。

①平成20年度

所属		人数
教育委員会学校教育部	教育政策課	2名
	教育改革推進課	1名
教育委員会生涯学習部	生涯学習課	1名
	体育振興課	2名
	文化課	1名
	青少年センター	3名
生涯学習振興公社	スポーツ部	1名
子ども家庭部	子育て推進課	1名
		12名

②平成27年度

教育委員会子ども家庭部	青少年課	5名
地域のちから推進部	スポーツ推進課	1名
		6名

＊定数上は、地域の力推進部6、学校教育部1、子ども家庭部4の11になっている。